

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 1日

事業所名 あさがおねっと大和田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		スペースは確保しているが、安全に過ごせるよう定期的に見直していく
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	利用人数に対して十分な配置数である	十分な支援員数の場合は、個別取り組みを充実できるようにする
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	33%	67%	トイレなどに段差がある イラストにて場所を視覚化している	より分かりやすくするために、様々な年齢の子供がわかるイラストに変えていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		より一層、清潔に保てるよう心がけていく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	社員を中心に行っている。その中の情報は事業所ミーティ	全支援員が一丸となるよう共通認識を持つ時間を確保する
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		保護者の意見を聞き取った場合は、支援員全体で共有できるようにしていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67%	33%	ホームページにて公開している。 公開していることを知らない支援員に周知していく	保護者や支援員への全体周知を再度していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	業務改善が不十分な為 今後努力する	外部評価を積極的に実施していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	33%	コロナ禍により外部研修が減っている	状況を見ながら外部研修への参加を検討していく。OJTの研修を充実させていく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		アセスメントの手段を見直し、より良いニーズに対する支援が出来るよう改善していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	保護者より検査結果などの情報提供のもと全支援員で共有するよう	必要に応じて検査結果の提示をお願いしていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	83%	17%		支援計画の改善を行い、より良い計画を提示できるようにする
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		引き続き実施していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	チームで行なうよう努力している	支援員の意見を聞き取り、子どもにとって良いプログラムを考案していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%	様々なプログラムを準備し固定化しないよう工夫している	支援員の意見を聞き取り、子どもにとって良いプログラムを考案していく
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%		成長に合わせた、それぞれの活動が実施できるようにしていく	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	33%	67%	重要な引継ぎ等は必要な時に行っているが毎日の細やかな打ち合わせができていない	共通認識が持てるよう時間を確保していく
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	33%	67%		送迎に時間がかかり振り返りが難しい時があるため、送迎スケジュールの見直しを図る
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	33%	67%	特記事項は記録しているが全員分は出来ていない	どのような支援を行ったのか、記録が不十分である。時間を確保し、検証と改善が出来るようにする
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%		コロナ禍で用紙でのモニタリングが多かったため、今後は状況を見て短時間で面談出来るようにしていく
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		児童発達支援管理責任者が参画することが多いが、ケースに応じて担当支援員の参画を考えていく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	67%	33%	情報を共有する為定期的に連絡をとり連携している	引き続き定期的に連絡を入れ連携できるよう心がける
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	対象児無し	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	対象児無し	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%	支援内容等の情報共有に努めているがまだ不十分	相互理解が充実できるよう、こちらから積極的に働きかけていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50%	50%	支援内容等の情報共有に努めているがまだ不十分	相互理解が充実できるよう、こちらから積極的に働きかけていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	機会が少ない為今後は研修を受ける機会を増やしていく	助言や研修の機会を増やしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	17%	83%	コロナ禍の為見合わせている	状況を見ながら、交流できる機会を増やしていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	67%	今後機会があれば積極的に参加し事業所の意見など	機会があれば積極的に参加していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	送迎時や連絡ノートなどで共通理解を	丁寧に伝えるよう時間の確保を行う
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	67%	33%	相談があった際は助言や提案を行っている	積極的に助言が行えるようにする
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%		丁寧な説明は不十分であったため、保護者への確認を行なう
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	17%	説明時間が十分ではない為改善していく	説明時の時間を確保していく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	67%	33%	送迎時等に相談を受けた時は対応している	相談しやすいよう、状況を見ながら個別面談を実施していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	コロナ感染予防のため開催できていない	保護者からのご要望もあり、今後は大人数にならないよう考慮し、実施出来るよう考える
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	相談があった際は迅速に対応するよう心がけている	迅速に対応できるよう、支援体制の設備を行う
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	33%	定期的にブログで様子を公開しているが会報等の発行はできていない	定期的に会報を配布出来るよう検討する
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		引き続き個人情報取り扱いについて、支援員全体で共通認識が持てるよう働きかける
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	情報伝達は全ての子供に配慮された環境ではないため	不十分な点は支援員で話し合い、速やかに対応していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	100%	コロナ感染予防の為に 見合わせている	状況を見ながら、地域交流を視野に運営していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%		訓練実施の様子については、保護者にわかりやすい内容で周知していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%		避難ルートの確認など、参加できない子どもも多くいるため、実施曜日の配慮が必要である
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%		状況は把握しているが、定期的に変更点がないか確認する必要がある
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	把握はしているが医師の指示書ではない	定期的に確認を行い、支援員全体で把握できるようにする
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハットについて全体で振り返りを実施していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%	職員研修を実施しているが全員参加が	権利擁護の研修機会を増やしていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	67%	33%	身体拘束をやむを得ずする可能性があれば説明をし了解を得た上で計画書に記載する	どういった場合に必要なのか、丁寧に説明するよう心がけていく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。